

富山県感染症発生動向速報

(2025 年第 16 週分・4 月 14 日～4 月 20 日)

■今週の主な動向

○伝染性紅斑の報告数が急増しています。

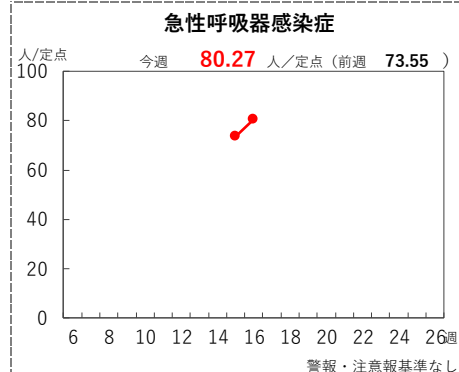
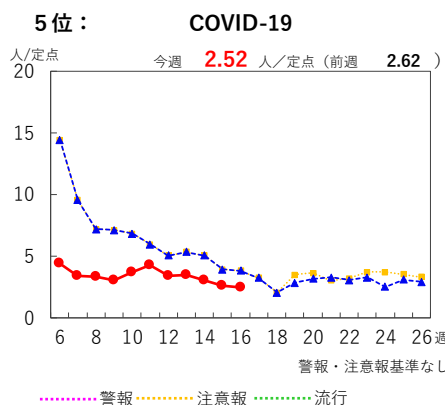
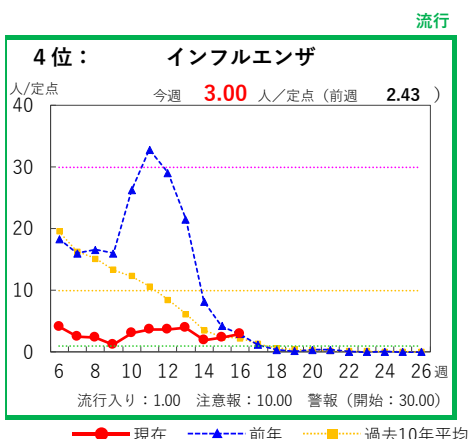
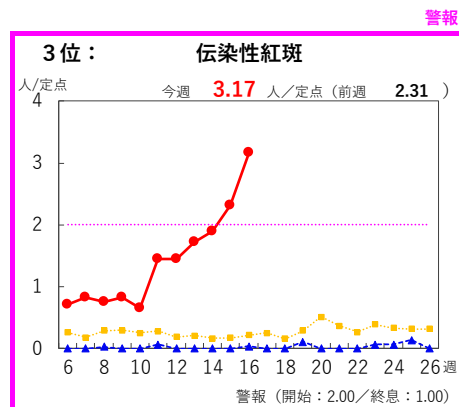
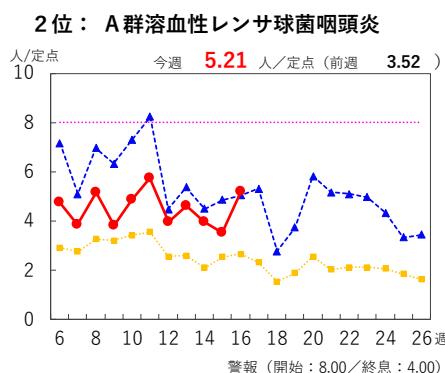
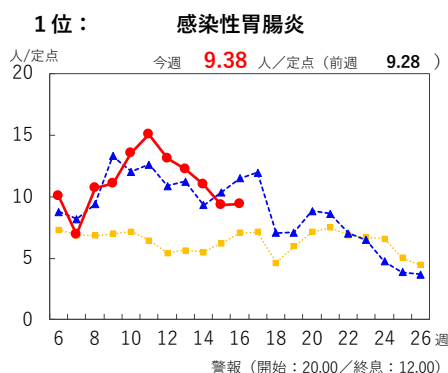
伝染性紅斑の報告数は第 11 週から増加が継続し、先週警報開始基準値（2.0 人/定点）を超え、今週更に増加し 3.17 人/定点となりました。妊婦が感染すると流産等の原因になることがあるので、注意が必要です（[4 月 16 日記者発表資料](#)）。

○百日咳が今週 13 例（2025 年累積 76 例）報告されました。

10～14 歳の小学校高学年～中学生を中心に百日咳患者の報告が続いています。百日咳は、長引く咳が特徴です。咳が長引く場合は、早めに医療機関を受診しましょう（[第 14 週インフォメーション参照](#)）。

■定点報告の感染症

今週の富山県内上位 5 疾患 + 急性呼吸器感染症（第 16 週・4/14～4/20）

厚生センター（保健所）管内別、直近の推移：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/#b1>

■全数報告の感染症

二類感染症 結核 5 件（①第 13 週診断分：80 歳代、男性 ②60 歳代、男性 ③70 歳代、男性 ④⑤ともに 80 歳代、男性）

四類感染症 デング熱 1 件（50 歳代、男性）
レジオネラ症 1 件（90 歳代、女性、ポンティアック熱型）

五類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 件（50 歳代、女性、B 群）
梅毒 1 件（40 歳代、女性、早期顕症梅毒Ⅱ期）

百日咳 15 件（①第 14 週診断分：10 歳代、男性 ②第 15 週診断分：10 歳代、女性 ③10 歳未満、男性 ④⑤ともに 10 歳未満、女性 ⑥⑦ともに 10 歳代、男性 ⑧～⑬全て 10 歳代、女性 ⑭40 歳代、女性 ⑮50 歳代、男性）



富山県感染症情報センター（富山県衛生研究所内）

TEL：0766-56-5431（直通） HP：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/>



海外で蚊に刺された後の発熱 それ「デング熱」かも

《 インフォメーション 》

● デング熱

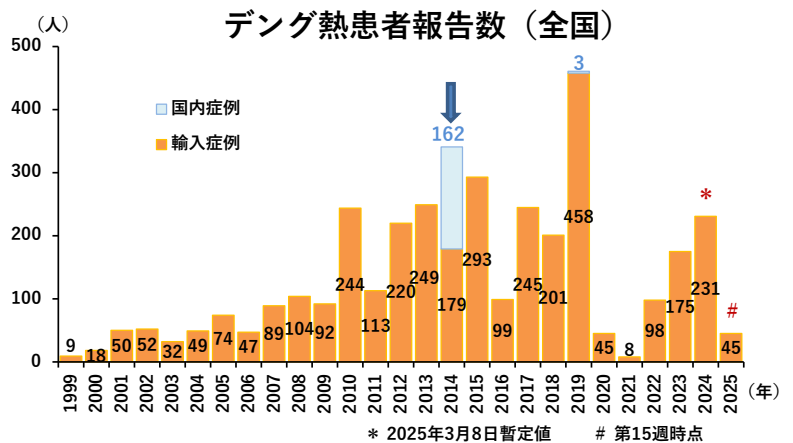
デング熱は、デングウイルスを保持した蚊に刺されることによって発症する蚊媒介感染症です。ウイルスに感染した患者を蚊が吸血し、蚊の体内で増殖したウイルスをその蚊が他者に広げる可能性はありますが、基本的に人から人への直接感染はありません。デングウイルスを媒介する蚊はネッ

タイシマカやヒトスジシマカで、これらの蚊の生息域である熱帯、亜熱帯地域、特に東南アジア、南アジア、中南米などの国々でデング熱の流行がみられます。

国内で報告される患者のほとんどが海外の流行地で感染し、日本国内で発症する輸入症例です。2014 年の夏季には、海外渡航歴がなく東京都内の代々木公園等で蚊に刺された人からデング熱患者が発生し、最終的に全国で 162 例の国内症例が確認されました（上図矢印）。その後、2019 年にも海外渡航歴がないデング熱患者が 3 例報告されています。また、2020 年の新型コロナウイルスのパンデミック発生後、海外渡航が制限されたことにより報告数が減少しましたが、2022 年から増加傾向がみられます（図参照）。富山県では、今週 5 年ぶりに輸入症例と考えられる 1 例の報告があり、2009 年の最初の報告以降 13 例となりました。

日本ではデングウイルスを媒介する蚊は冬を越せないため、国内で流行が長期間持続することはありません。しかし、海外の流行地から入国した感染者が国内でヒトスジシマカに吸血されると、この吸血した蚊が他の人を吸血することでデングウイルスを伝播させ、国内流行のリスクとなります。

デングウイルスに感染した者のうち、20～50%が感染後 2～14 日（多くは 3～7 日）の潜伏期の後に発熱や皮疹などの症状を呈します。突然の高熱で発症し、発疹、頭痛、関節痛などがみられます。通常、発病から 2～7 日で解熱します。解熱時期に、点状出血や島状に白く抜ける紅斑など特徴的な発疹がみられます。これらの症状は 1 週間程度で回復しますが、一部の患者において、解熱時期に、顕著な血小板減少及び血管透過性亢進（血漿漏出）を伴うデング出血熱となることがあります。この場合には、入院下に適切な輸液療法が必要です。現在、デング熱には、国内で承認されたワクチンや治療薬はなく、治療は対症療法が主となります。デングウイルスの感染を防ぐためには、流行地域で媒介する蚊に刺されないことが重要な対策となります。流行地域で蚊に刺されたり、帰国後に急な発熱と皮膚に赤い発疹が見られたりした場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。



○感染症発生動向調査報告状況（2025年第16週 2025年4月14日～2025年4月20日）

分類		疾患		今週報告分（第16週）						累積報告数（2025年第1週（2024年12月30日）～）					
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計		
全数把握	二類感染症	結核	1			3	4	2	1	6	4	22	35		
		（再掲）結核：無症状病原体保有者を除く				1	1	1		3	4	13	21		
	三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症								1			1		
	四類感染症	E型肝炎									2			2	
		A型肝炎								1	1			2	
		デング熱			1			1			1			1	
		レジオネラ症			1			1		1	2		1	4	
	五類感染症	アメーバ赤痢									1		1	2	
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症									3		5	8	
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1					1	1		1		4	6	
		後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）											1	1	
		侵襲性インフルエンザ菌感染症							1		1	2	2	6	
		侵襲性肺炎球菌感染症							4		3	3	9	19	
		梅毒		1				1	1	1	2		7	11	
		百日咳	1	1			9	13	1	2	15	3	55	76	
	風しん										1		1		
定点把握（上段：報告数、下段：定点医療機関当たりの報告数）	急性呼吸器感染症（ARI）定点（48定点）	急性呼吸器感染症（※1）	356	391	1,274	256	1,576	3,853	739	715	2,379	486	2,991	7,310	
			50.86	78.20	98.00	36.57	98.50	80.27							
		インフルエンザ	15	69	8	15	37	144	891	790	1,637	967	1,802	6,087	
			2.14	13.80	0.62	2.14	2.31	3.00							
		COVID-19	29	6	28	22	36	121	745	304	862	539	715	3,165	
		4.14	1.20	2.15	3.14	2.25	2.52								
	小児科定点（29定点）	RSウイルス感染症		3	7	2	13	25	16	20	85	35	132	288	
				1.00	0.88	0.50	1.30	0.86							
		咽頭結膜熱	1	2	4		3	10	44	13	127	2	33	219	
			0.25	0.67	0.50		0.30	0.34							
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	13	60	5	69	151	63	133	726	79	979	1,980	
			1.00	4.33	7.50	1.25	6.90	5.21							
		感染性胃腸炎	21	25	50	11	165	272	458	403	865	301	2,404	4,431	
			5.25	8.33	6.25	2.75	16.50	9.38							
		水痘					5	5	2	8	19	5	75	109	
							0.50	0.17							
		手足口病								1	9	1	1	12	
		伝染性紅斑	5	13	41	1	32	92	21	64	217	3	208	513	
			1.25	4.33	5.13	0.25	3.20	3.17							
		突発性発しん	1		1	1		3	3	6	31	10	30	80	
		0.25		0.13	0.25		0.10								
	ヘルパンギーナ		1				1	15	1		1	1	18		
			0.33				0.03								
	流行性耳下腺炎			1			1		3	2	1	8	14		
				0.13			0.03								
	眼科定点（7定点）	急性出血性結膜炎				8		8			4	55		59	
						8.00		1.14							
		流行性角結膜炎							1		14	1		16	
	基幹定点（5定点）	細菌性髄膜炎										1		1	
		マイコプラズマ肺炎				1		1	12	3	15	15	4	49	
						1.00		0.20							
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）										3			3	
入院サーベイランス（5定点）	インフルエンザによる入院患者（※2）					1	1	55	20	46	67	51	239		
	COVID-19による入院患者	3		3	1	3	10	71	68	47	101	156	443		

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 急性呼吸器感染症は2025年第15週（4/7～）より開始しました。（参考：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/topics/ari/>）

※2 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、2024年第36週（9/2～）の集計です。

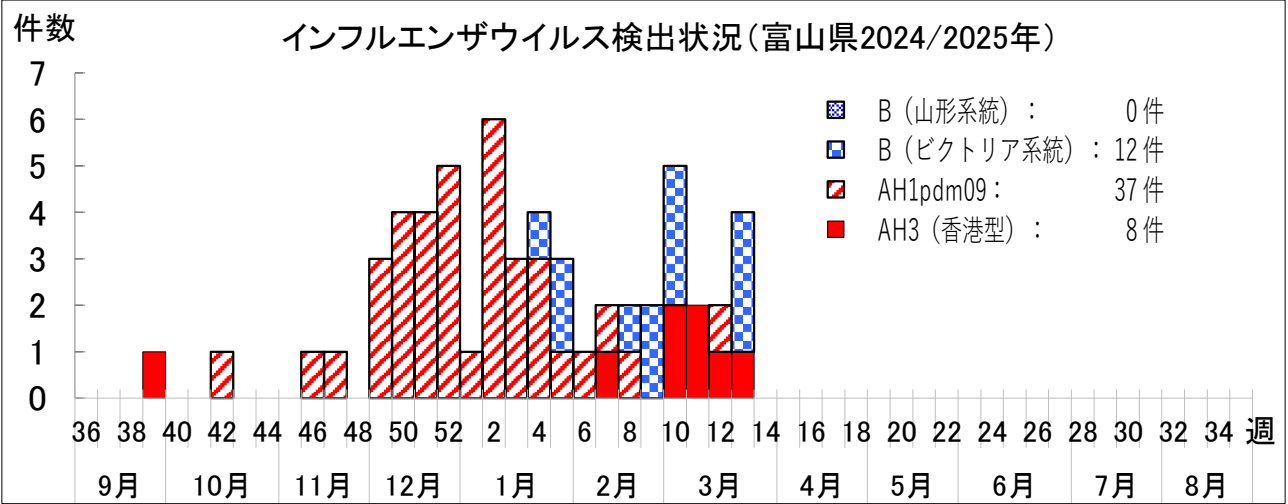
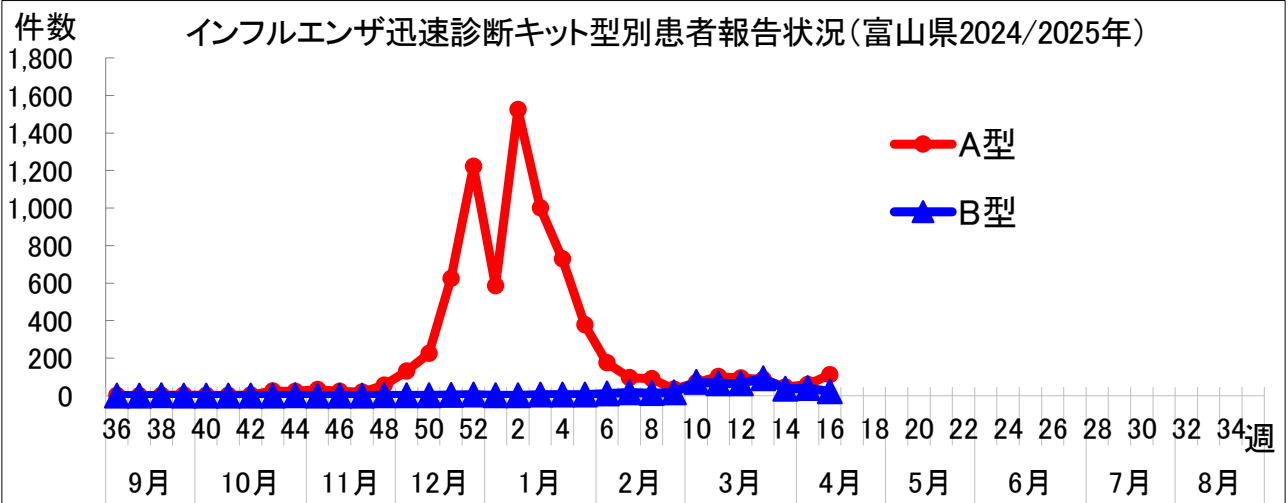
インフルエンザ定点における患者診断状況

このデータは、インフルエンザ定点医療機関で実施されたインフルエンザ迅速診断キットの診断数を集計したものです。
現在、下の表によると、A型が77.1%、B型が15.3%となっています。

第16週(4/14～4/20)：富山県 3.00人/定点 (単位:件)

厚生セン ター・ 保健所名	報告数/定点数	迅速診断キット		その他 ^{※2}	合計
		A型	B型		
新川	3 / 7	7	8	0	15
中部	5 / 5	62	0	7	69
高岡	5 / 13	3	3	2	8
砺波	5 / 7	5	10	0	15
富山市	9 / 16	34	1	2	37
富山県	27 / 48 ^{※1}	111	22	11	144
富山県累計(2024年36週～)		7,580	489	532	8,601

※1 48の定点医療機関のうち、インフルエンザと診断した医療機関が27か所あったことを示します。
※2 「その他」には、臨床症状等によりインフルエンザと診断したが型別までは不明な患者や迅速診断キットの結果がA型とB型共に陽性の患者が対象となります。



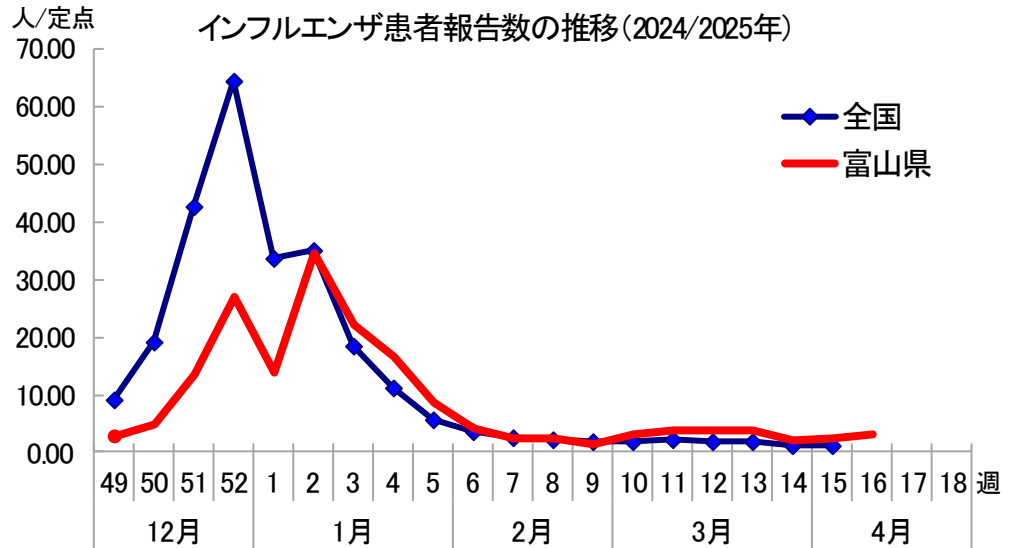


● 定点医療機関からのインフルエンザ患者報告状況

第16週（4/14～4/20）：富山県 3.00 人/定点

新川 HC（2.14）、中部 HC（13.80）、高岡 HC（0.62）、砺波 HC（2.14）、富山市 HC（2.31）

県内の患者報告数は、第16週に3.00人/定点となり、前週（2.43）と比較して増加しました。

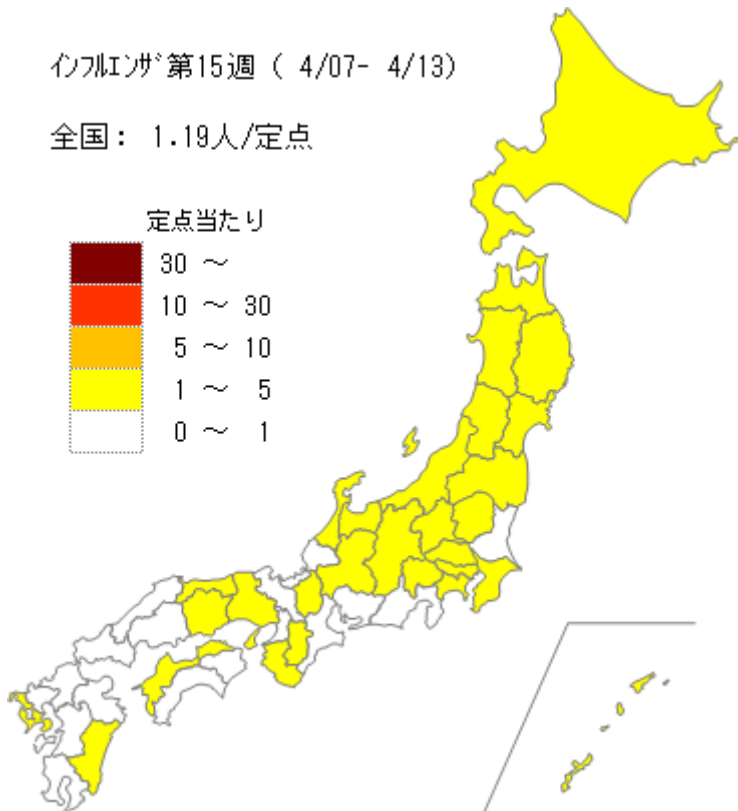


● 都道府県別インフルエンザ患者報告状況 第15週（4/7～4/13）

全国の患者報告数は、定点医療機関あたり1.19人となり、前週の1.20人より減少しました。25都道府県で前週より増加しています。22府県で前週より減少しています。

インフル第15週（4/07- 4/13）

全国：1.19人/定点



都道府県	人/定点	都道府県	人/定点
北海道	1.63 ↑	滋賀県	1.27 ↓
青森県	1.73 ↓	京都府	0.96 ↑
岩手県	1.53 ↓	大阪府	0.99 ↓
宮城県	1.58 ↑	兵庫県	1.11 ↑
秋田県	4.72 ↑	奈良県	1.05 ↓
山形県	1.56 ↓	和歌山県	1.11 ↓
福島県	2.06 ↑	鳥取県	1.48 ↑
茨城県	0.84 ↑	島根県	0.40 ↓
栃木県	1.53 ↑	岡山県	2.04 ↑
群馬県	1.56 ↑	広島県	0.56 ↓
埼玉県	1.41 ↑	山口県	0.67 ↑
千葉県	1.30 ↑	徳島県	0.76 ↑
東京都	1.24 ↑	香川県	1.35 ↓
神奈川県	1.06 ↑	愛媛県	1.05 ↑
新潟県	1.44 ↓	高知県	0.68 ↓
富山県	2.43 ↑	福岡県	0.91 ↓
石川県	1.10 ↓	佐賀県	0.88 ↑
福井県	0.36 ↓	長崎県	1.14 ↑
山梨県	1.37 ↓	熊本県	0.62 ↓
長野県	2.00 ↓	大分県	0.59 ↓
岐阜県	1.27 ↑	宮崎県	1.46 ↓
静岡県	0.57 ↓	鹿児島県	0.79 ↑
愛知県	0.94 ↑	沖縄県	2.51 ↓
三重県	0.47 ↑	全国	1.19 ↓